

## 〔 I 〕

(1)  $\boxed{\text{ア}} \left(\frac{1}{3}\right)^n$   $\boxed{\text{イ}} 1 - \left(\frac{5}{6}\right)^n$   $\boxed{\text{ウ}} \frac{1}{27}$   $\boxed{\text{エ}} \frac{31}{108}$   $\boxed{\text{オ}} \frac{248}{311}$

(2)  $\boxed{\text{カ}} -\frac{i}{2}$   $\boxed{\text{キ}} \frac{1}{2}$   $\boxed{\text{ク}} -\frac{1}{4}$   $\boxed{\text{ケ}} \frac{1}{4}$   $\boxed{\text{コ}} 90^\circ$

## ■ 解説 □

(1)  $a_k = X_k - 4$  とおくと,  $a_k$  は  $\{-3, -2, -1, 0, 1, 2\}$  の各値を確率  $\frac{1}{6}$  でとる.

$\boxed{\text{ア}}$   $|Y_n| = |a_1| \cdot |a_2| \cdots |a_n|$  である.  $|a_k|$  のとりうる値は 0, 1, 2, 3 であるから,  $|Y_n| = 1$  となるための条件は, すべての  $k$  で  $|a_k| = 1$  であることである.

$|a_k| = 1$  となるための条件は, 「 $X_k = 3$  または  $X_k = 5$ 」であり, その確率は  $\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$  である. 各回の試行は独立であるから,

$$P(|Y_n| = 1) = \underbrace{\left(\frac{1}{3}\right)^n}$$

$\boxed{\text{イ}}$   $Y_n = 0$  となるための条件は,  $a_1, a_2, \dots, a_n$  のうち少なくとも 1 つが 0 (すなわち少なくとも 1 つの  $k$  で  $X_k = 4$ ) であることである.

余事象「すべての  $k$  で  $X_k \neq 4$ 」の確率は  $\left(\frac{5}{6}\right)^n$  であるから,

$$P(Y_n = 0) = 1 - \underbrace{\left(\frac{5}{6}\right)^n}$$

以下,  $n = 4$  とする.

$\boxed{\text{ウ}}$   $Y_4 = a_1 a_2 a_3 a_4 = 6$  であるから,  $a_1, a_2, a_3, a_4$  はすべて 0 でない.  $|a_k|$  のとりうる値は 1, 2, 3 に限られ,  $|a_1| \cdot |a_2| \cdot |a_3| \cdot |a_4| = 6$  を満たす  $|a_k|$  の値の組合せは  $\{3, 2, 1, 1\}$  のみである.

$|a_k| = 3$  となる条件は「 $a_k = -3$ 」(1 通り) であり,  $|a_k| = 2$  となる条件は「 $a_k = \pm 2$ 」(2 通り),  $|a_k| = 1$  となる条件は「 $a_k = \pm 1$ 」(2 通り) である.

$|a_1|, |a_2|, |a_3|, |a_4|$  に絶対値  $\{3, 2, 1, 1\}$  を割り当てる順列は  $\frac{4!}{2!} = 12$  通りである.

次に符号を考える.  $a_k = -3$  は負で確定しているから, 全体の積が正 (= 6) になるための条件は, 残り 3 つの  $a_k$  の積が負であることである. このとき, 残り 3 つのうち負のものの個数が奇数 (1 個または 3 個) であり, その場合の数は  ${}_3C_1 + {}_3C_3 = 4$  通りである.

よって,  $Y_4 = 6$  となる場合の数は  $12 \times 4 = 48$  通りであり,

$$P(Y_4 = 6) = \frac{48}{6^4} = \frac{48}{1296} = \underbrace{\frac{1}{27}}$$

エ  $Z_3 = a_1 a_2 a_3$  である.  $Z_3 > 0$  となるための条件は,  $a_1, a_2, a_3$  がすべて 0 でなく, かつそのうち負のものの個数が偶数 (0 個または 2 個) であることである.

各  $a_k$  について,  $P(a_k > 0) = \frac{2}{6} = \frac{1}{3}$ ,  $P(a_k < 0) = \frac{3}{6} = \frac{1}{2}$ ,  $P(a_k = 0) = \frac{1}{6}$  である.

負のものが 0 個 (3 つとも正) の確率は  $\left(\frac{1}{3}\right)^3 = \frac{1}{27}$ , 負のものが 2 個で正が 1 個の確率は  ${}_3C_2 \left(\frac{1}{2}\right)^2 \left(\frac{1}{3}\right) = \frac{1}{4}$  であるから,

$$P(Z_3 > 0) = \frac{1}{27} + \frac{1}{4} = \frac{4+27}{108} = \frac{31}{108}$$

オ  $Y_4 = Z_3 \cdot a_4 = Z_3 (X_4 - 4)$  であるから,

$$Z_3 > Y_4 \iff Z_3 - Z_3 (X_4 - 4) > 0$$

$$\iff Z_3 (5 - X_4) > 0$$

$$\iff Z_3 (X_4 - 5) < 0$$

$$\iff (X_1 - 4)(X_2 - 4)(X_3 - 4)(X_4 - 5) < 0 \dots\dots(*)$$

すなわち,  $Z_3 > Y_4$  となるための条件は,  $Z_3$  と  $(X_4 - 5)$  が異符号であることである.  $X_4 - 5$  の符号で場合を分ける.

(i)  $X_4 = 6$  のとき (確率  $\frac{1}{6}$ ):  $X_4 - 5 = 1 > 0$  であるから,  $Z_3 < 0$  である.

(ii)  $X_4 = 5$  のとき (確率  $\frac{1}{6}$ ):  $X_4 - 5 = 0$  となり, (\*) の左辺は 0 だから成り立たない.

(iii)  $X_4 \in \{1, 2, 3, 4\}$  のとき (確率  $\frac{2}{3}$ ):  $X_4 - 5 < 0$  であるから,  $Z_3 > 0$  である.

$P(Z_3 < 0)$  を求める.  $Z_3 < 0$  となるための条件は,  $a_1, a_2, a_3$  がすべて 0 でなく, かつそのうち負のものの個数が奇数 (1 個または 3 個) であることである. 負のものが 1 個で正が 2 個の確率は  ${}_3C_1 \left(\frac{1}{2}\right) \left(\frac{1}{3}\right)^2 = \frac{1}{6}$ , 負のものが 3 個の確率は  $\left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{1}{8}$  であるから,  $P(Z_3 < 0) = \frac{1}{6} + \frac{1}{8} = \frac{7}{24}$  である.

ここで, 事象  $A$  を「 $Z_3 > Y_4$ 」, 事象  $B$  を「 $Z_3 > 0$ 」と定めると,

$$P(A) = \frac{1}{6} \cdot \frac{7}{24} + \frac{2}{3} \cdot \frac{31}{108} = \frac{7}{144} + \frac{31}{162} = \frac{63}{1296} + \frac{248}{1296} = \frac{311}{1296}$$

$A$  かつ  $B$  が成り立つのは (iii) のみであるから,

$$P(A \cap B) = \frac{2}{3} \cdot \frac{31}{108} = \frac{31}{162} = \frac{248}{1296}$$

よって, 求める条件付き確率は,

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{\frac{248}{1296}}{\frac{311}{1296}} = \frac{248}{311}$$

(2) カ キ 点  $z$  が原点と点  $2i$  を結ぶ線分の垂直二等分線上にある条件は

$$|z| = |z - 2i|$$

である.  $w = \frac{1}{z}$  より  $z = \frac{1}{w}$  であるから, これを代入すると,

$$\left| \frac{1}{w} \right| = \left| \frac{1}{w} - 2i \right|$$

$w \neq 0$  のもとで, 両辺に  $|w|$  をかけると,

$$1 = |1 - 2iw|$$

両辺を  $|2i| = 2$  で割ると,

$$\left| w - \frac{1}{2i} \right| = \frac{1}{2}$$

$\frac{1}{2i} = -\frac{i}{2}$  であるから,

$$\left| w - \left( -\frac{i}{2} \right) \right| = \frac{1}{2}$$

$w = 0$  はこの円上にあるが, 今  $w \neq 0$  であるから, 点  $w$  が描く図形には点  $0$  が含まれない.

よって,  $C_1$  は点  $A \left( \underbrace{-\frac{i}{2}} \right)$  を中心とする半径  $\frac{1}{2}$  の円から原点を除いた曲線である.

ク ケ 点  $z$  が点  $-2$  を通り実軸に垂直な直線上を動く条件は  $\operatorname{Re}(z) = -2$  であるが, この直線は 2 点  $0, -4$  を結ぶ線分の垂直二等分線であるから,

$$|z| = |z + 4|$$

と表せる.  $z = \frac{1}{w}$  を代入すると,

$$\left| \frac{1}{w} \right| = \left| \frac{1}{w} + 4 \right|$$

$w \neq 0$  のもとで, 両辺に  $|w|$  をかけると,

$$1 = |1 + 4w|$$

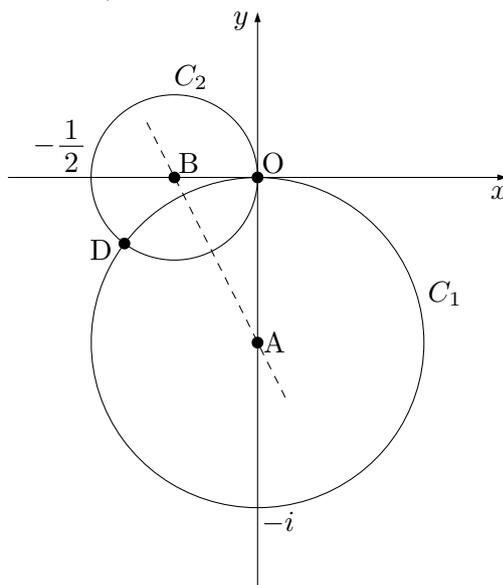
両辺を  $|4| = 4$  で割ると,

$$\left| w + \frac{1}{4} \right| = \frac{1}{4} \quad \text{すなわち} \quad \left| w - \left( -\frac{1}{4} \right) \right| = \frac{1}{4}$$

$w = 0$  はこの円上にあるが, 今  $w \neq 0$  であるから, 点  $w$  が描く図形には点  $0$  が含まれない.

よって,  $C_2$  は点  $B \left( \underbrace{-\frac{1}{4}} \right)$  を中心とする半径  $\frac{1}{4}$  の円から原点を除いた曲線である.

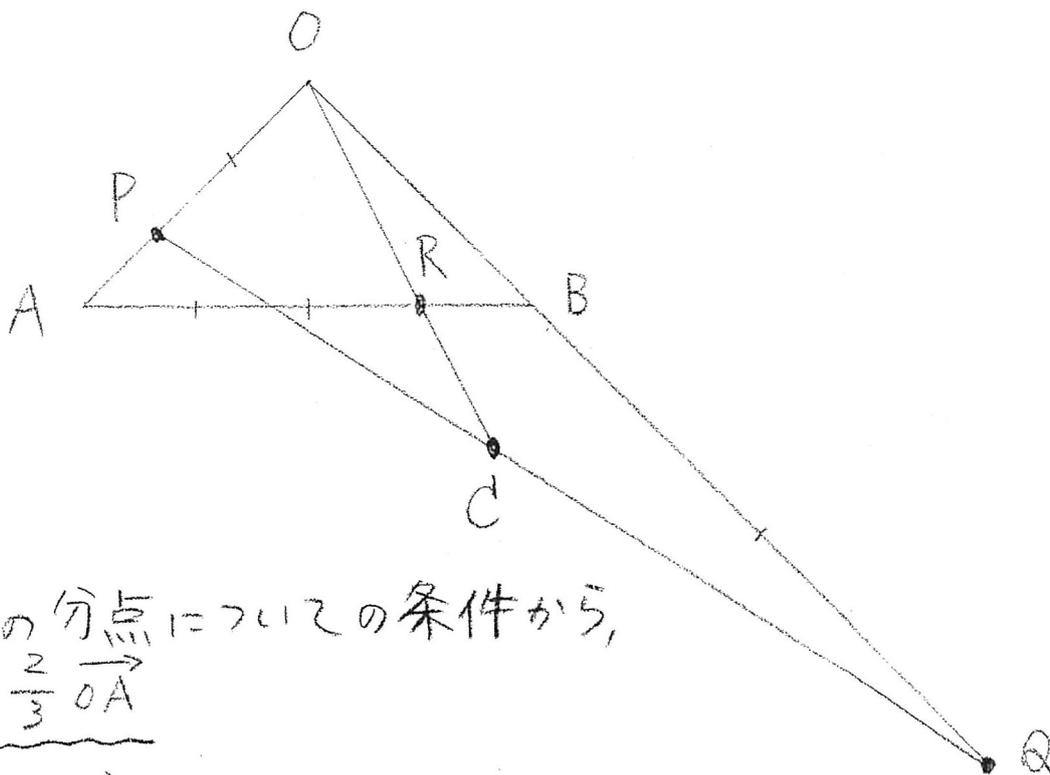
☐ 曲線  $C_1$  と曲線  $C_2$  を図示すると、以下の図のようになる (ただし、点  $O$  は除く).



$C_1$  と点  $O$  を含む円と  $C_2$  と点  $O$  を含む円は異なる 2 点で交わり、その 2 つの交点が点  $O$  と点  $D$  である. 2 つの円はともに直線  $AB$  に関して対称であるから、点  $O$  と点  $D$  も直線  $AB$  に関して対称である. したがって  $AO = AD$ ,  $BO = BD$  が成り立ち、

$$\angle ADB = \angle AOB = 90^\circ$$

〔Ⅱ〕



(1) 題意の分点についての条件から、

$$\underline{\underline{\vec{OP} = \frac{2}{3} \vec{OA}}}$$

$$\underline{\underline{\vec{OQ} = 3 \vec{OB}}}$$

$$\underline{\underline{\vec{OR} = \frac{\vec{OA} + 3 \vec{OB}}{4}}}$$

とよび、

(2) (1)の結果から

$$\begin{aligned} \vec{OC} &= (1-s) \vec{OP} + s \vec{OQ} \\ &= \frac{2}{3} (1-s) \vec{OA} + 3s \vec{OB} \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \vec{OC} &= t \vec{OR} = t \cdot \frac{\vec{OA} + 3 \vec{OB}}{4} \\ &= \frac{1}{4} t \vec{OA} + \frac{3}{4} t \vec{OB} \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

とよび、今、 $\vec{OA} \neq \vec{0}$  かつ  $\vec{OB} \neq \vec{0}$  かつ  $\vec{OA} \times \vec{OB}$  同方向でないから、 $\textcircled{1}$  かつ  $\textcircled{2}$  より、

$$\begin{cases} \frac{2}{3}(1-s) = \frac{1}{4}t \\ 3s = \frac{3}{4}t \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} s = \frac{2}{5} \\ t = \frac{8}{5} \end{cases}$$

とわかる。

(3) (2)の結果から  $\vec{OC} = \frac{2}{5}\vec{OA} + \frac{6}{5}\vec{OB}$  であるので、

$$\begin{aligned} \vec{OC} \cdot (\vec{OA} + \vec{OB}) &= \left( \frac{2}{5}\vec{OA} + \frac{6}{5}\vec{OB} \right) \cdot (\vec{OA} + \vec{OB}) \\ &= \frac{2}{5}|\vec{OA}|^2 + \frac{6}{5}|\vec{OB}|^2 + \frac{8}{5}\vec{OA} \cdot \vec{OB} \\ &= \frac{2}{5} + \frac{6}{5} + \frac{8}{5} \cdot \left( -\frac{1}{4} \right) = \frac{6}{5} \end{aligned}$$

である。

$$(4) \vec{OU} = p\vec{CA} + q\vec{CB} \quad (*)$$

$$\vec{OU} = \vec{OC} + \vec{CU}$$

$$= \vec{OC} + p\vec{CA} + q\vec{CB} = \vec{OC} + p(\vec{OA} - \vec{OC}) + q(\vec{OB} - \vec{OC})$$

$$= p\vec{OA} + q\vec{OB} + (1-p-q)\vec{OC}$$

であるから(3)の結果もふまえて、

$$\begin{aligned} \vec{OU} \cdot (\vec{OA} + \vec{OB}) &= (p\vec{OA} + q\vec{OB} + (1-p-q)\vec{OC}) \cdot (\vec{OA} + \vec{OB}) \\ &= (p\vec{OA} + q\vec{OB}) \cdot (\vec{OA} + \vec{OB}) + (1-p-q)\vec{OC} \cdot (\vec{OA} + \vec{OB}) \\ &= p|\vec{OA}|^2 + q|\vec{OB}|^2 + (p+q)\vec{OA} \cdot \vec{OB} \\ &\quad + (1-p-q)\vec{OC} \cdot (\vec{OA} + \vec{OB}) \\ &= p + q + (p+q) \cdot \left( -\frac{1}{4} \right) + (1-p-q) \cdot \frac{6}{5} \\ &= -\frac{9}{20}p + \left( \frac{6}{5} - \frac{9}{20}q \right) \end{aligned}$$

とわかる。よって、

$\overrightarrow{OX} \cdot (\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB}) = \alpha + \beta\rho + \gamma\theta$  が  $\rho, \theta$  に無関係に成り立つ

$\Leftrightarrow -\frac{9}{20}\rho + (\frac{6}{5} - \frac{9}{20}\theta) = \beta\rho + (\alpha + \gamma\theta)$  が  $\rho, \theta$  に無関係に成り立つ

$\Leftrightarrow \begin{cases} -\frac{9}{20} = \beta \\ \frac{6}{5} - \frac{9}{20}\theta = \alpha + \gamma\theta \end{cases}$  が  $\theta$  に無関係に成り立つ

$\Leftrightarrow \begin{cases} \alpha = \frac{6}{5} \\ \beta = -\frac{9}{20} \\ \gamma = -\frac{9}{20} \end{cases}$

であり、これから求める  $\alpha, \beta, \gamma$  の値である。

(5)  $\triangle ABC$  の周およびその内部を動く点  $X$  について、 $\overrightarrow{OX} = \alpha\overrightarrow{OA} + \gamma\overrightarrow{OB}$  ( $\alpha \geq 0$  かつ  $\gamma \geq 0$  かつ  $\alpha + \gamma \leq 1$ ... ③) と表せる。  $k = \overrightarrow{OX} \cdot (\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB})$  とおくと、このとき (4) の系結果から

$$k = \frac{6}{5} - \frac{9}{20}\alpha - \frac{9}{20}\gamma$$

$$\therefore \gamma = -\alpha + \frac{8}{3} - \frac{20}{9}k$$

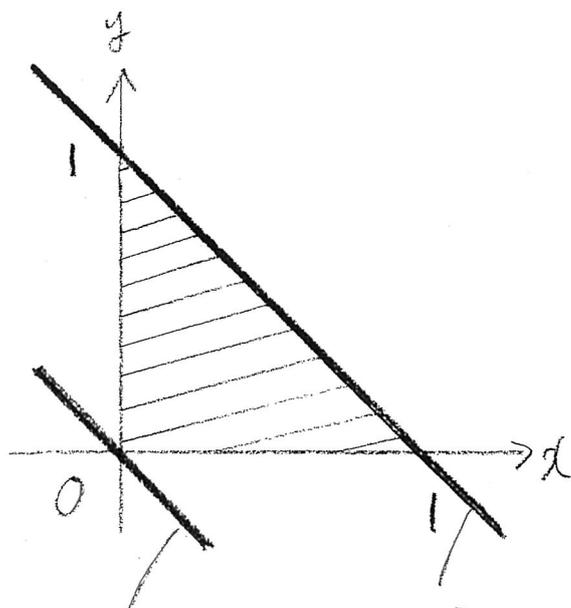
と表せる。上式で表される  $\alpha, \gamma$  平面上的直線  $l$  とする。

③ を満たす点  $(\alpha, \gamma)$  の集合は次図の斜線部 (境界を含む) である。直線  $l$  がここを通るような  $k$  の最大値、最

小値が"求めるものである。

図より  $l$  が "点  $(0, 0)$ , 点  $(1, 0)$  を通るとき,  $k$  は "水" 最大値  $\frac{6}{5}$ , 最小値  $\frac{3}{4}$  をとり, "これらが" 水

"水" 求める最大値, 最小値である。



$l(k = \frac{6}{5} \text{ のとき})$        $l(k = \frac{3}{4} \text{ のとき})$

[Ⅲ]

■ 解答例 □

- (1)  $y' = -2x$  より, 点  $P(a, 9 - a^2)$  における接線  $\ell$  の式は,

$$y = -2a(x - a) + 9 - a^2 = -2ax + a^2 + 9$$

よって, 点 A の  $x$  座標は

$$0 = -2ax + a^2 + 9$$

$$2ax = a^2 + 9$$

$0 < a < 3$  より,

$$x = \frac{a^2 + 9}{2a}$$

また, 点 B の  $y$  座標は

$$y = a^2 + 9$$

- (2)  $OA = \frac{a^2 + 9}{2a}$ ,  $OB = a^2 + 9$  より,  $\triangle OAB$  の面積  $S(a)$  は

$$S(a) = \frac{1}{2} \cdot \frac{a^2 + 9}{2a} \cdot (a^2 + 9) = \frac{(a^2 + 9)^2}{4a}$$

と表せるから,

$$\begin{aligned} S'(a) &= \frac{1}{4} \cdot \frac{2(a^2 + 9) \cdot 2a \cdot a - (a^2 + 9)^2}{a^2} \\ &= \frac{1}{4} \cdot \frac{(a^2 + 9)\{4a^2 - (a^2 + 9)\}}{a^2} \\ &= \frac{3(a^2 + 9)(a^2 - 3)}{4a^2} \\ &= \frac{3(a^2 + 9)(a + \sqrt{3})(a - \sqrt{3})}{4a^2} \end{aligned}$$

$a$	(0)	...	$\sqrt{3}$	...	(3)
$S'(a)$		-	0	+	
$S(a)$		↘		↗	

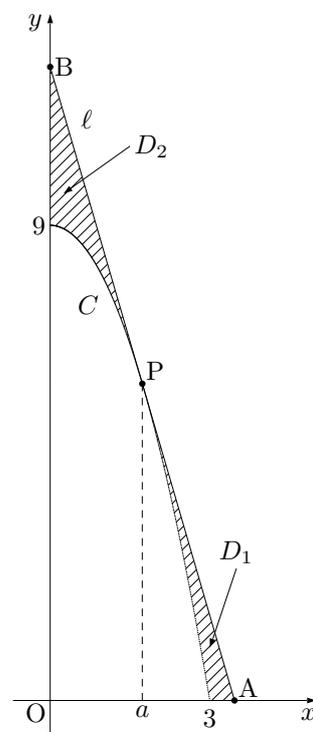
増減表より,  $S(a)$  は  $a = \sqrt{3}$  で最小となるので, 求める  $S(a)$  の最小値は,

$$S(\sqrt{3}) = \frac{(3 + 9)^2}{4\sqrt{3}} = \frac{144}{4\sqrt{3}} = \underline{\underline{12\sqrt{3}}}$$

- (3)  $a = \sqrt{3}$  のとき,  $A(2\sqrt{3}, 0)$ ,  $B(0, 12)$ ,  $P(\sqrt{3}, 6)$  である.

$S_1 + S_2$  は,  $\triangle OAB$  の面積から曲線  $C$  と  $x$  軸,  $y$  軸で囲まれた部分の面積を除いた値であるから, (2) の結果を使うと

$$S_1 + S_2 = 12\sqrt{3} - \int_0^3 (9 - x^2) dx = 12\sqrt{3} - \left[ 9x - \frac{x^3}{3} \right]_0^3 = \underline{\underline{12\sqrt{3} - 18}}$$



- (4) 求める立体の体積を
- $V$
- とすると,

$$V = \int_0^9 \pi \cdot x^2 dy = \pi \int_0^9 (9-y) dy = \pi \left[ 9y - \frac{y^2}{2} \right]_0^9 = \underline{\underline{\frac{81}{2}\pi}}$$

- (5) まず,
- $V_2$
- を求めると,

$$\begin{aligned} V_2 &= \frac{1}{3} \cdot (12-6) \cdot \{\pi \cdot (\sqrt{3})^2\} - \int_6^9 \pi \cdot x^2 dy \\ &= 6\pi - \pi \int_6^9 (9-y) dy \\ &= 6\pi - \pi \left[ 9y - \frac{y^2}{2} \right]_6^9 \\ &= 6\pi - \pi \left\{ \left( 81 - \frac{81}{2} \right) - (54 - 18) \right\} \\ &= \underline{\underline{\frac{3}{2}\pi}} \end{aligned}$$

$V_1$  は  $\triangle OAB$  を  $y$  軸の周りに 1 回転させてできる立体の体積から,  $V$  と  $V_2$  を除いた値であるから,

$$V_1 = \frac{1}{3} \cdot 12 \cdot \{\pi \cdot (2\sqrt{3})^2\} - V - V_2 = 48\pi - \frac{81}{2}\pi - \frac{3}{2}\pi = \underline{\underline{6\pi}}$$

## 〔IV〕

## ■ 解答例 □

(1)  $f(x) = x(\log x)^2 + 2x \log x + x = x(\log x + 1)^2$  を微分すると,

$$f'(x) = (x)'(\log x + 1)^2 + x \{(\log x + 1)^2\}'$$

$$= (\log x + 1)^2 + x \cdot 2(\log x + 1) \cdot \frac{1}{x}$$

$$= (\log x + 1)^2 + 2(\log x + 1)$$

$$= (\log x + 3)(\log x + 1)$$

$x$	(0)	...	$\frac{1}{e^3}$	...	$\frac{1}{e}$	...
$f'(x)$		+	0	-	0	+
$f(x)$		↗	$\frac{4}{e^3}$	↘	0	↗

$$f'(x) = 0 \text{ を満たす } x \text{ は, } x = \frac{1}{e^3}, \frac{1}{e}$$

$x > 0$  に注意すると,  $f(x)$  の増減表は右上の通りであるので,  $y = f(x)$  の極値は,

$$x = \frac{1}{e^3} \text{ で } \underbrace{\text{極大値 } \frac{4}{e^3}}, \quad x = \frac{1}{e} \text{ で } \underbrace{\text{極小値 } 0}$$

$$\begin{aligned}
 (2) \quad \int x \log x \, dx &= \int \left(\frac{1}{2}x^2\right)' \log x \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 \log x - \int \frac{1}{2}x^2 \cdot (\log x)' \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 \log x - \int \frac{1}{2}x^2 \cdot \frac{1}{x} \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 \log x - \int \frac{1}{2}x \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 \log x - \frac{1}{4}x^2 + C \\
 &= \frac{1}{4}x^2 (2X - 1) + C
 \end{aligned}$$

これより,  $p(X) = \underbrace{2X - 1}$  であり, この結果を用いると,

$$\begin{aligned}
 \int f(x) \, dx &= \int x(\log x + 1)^2 \, dx \\
 &= \int \left(\frac{1}{2}x^2\right)' (\log x + 1)^2 \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 (\log x + 1)^2 - \int \frac{1}{2}x^2 \cdot \{(\log x + 1)^2\}' \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 (\log x + 1)^2 - \int \frac{1}{2}x^2 \cdot 2(\log x + 1) \cdot \frac{1}{x} \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 (\log x + 1)^2 - \int x(\log x + 1) \, dx \\
 &= \frac{1}{2}x^2 (X + 1)^2 - \frac{1}{4}x^2 (2X - 1) - \frac{1}{2}x^2 + C \\
 &= \frac{1}{4}x^2 (2X^2 + 2X + 1) + C
 \end{aligned}$$

これより,  $q(X) = \underbrace{2X^2 + 2X + 1}$

- (3) (1) の増減表より,  $f(x)$  は  $x > \frac{1}{e}$  において単調に増加し,  $f\left(\frac{1}{e}\right) = 0$  である. したがって,  $k$  を自然数として, 右図より, 面積を比較すると,

$$1 \cdot f(k) \leq \int_k^{k+1} f(x) dx \leq 1 \cdot f(k+1)$$

$$f(k) \leq \int_k^{k+1} f(x) dx \text{ において, } k = 2, 3, \dots, n \text{ と}$$

して辺々を加えると,

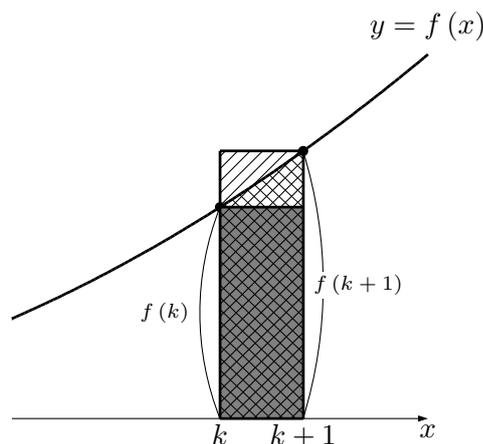
$$\sum_{k=2}^n f(k) \leq \int_2^{n+1} f(x) dx \dots\dots \textcircled{1}$$

また,  $\int_k^{k+1} f(x) dx \leq f(k+1)$  において,  $k = 1, 2, \dots, n-1$  として辺々を加えると,

$$\int_1^n f(x) dx \leq \sum_{k=1}^{n-1} f(k+1) = \sum_{k=2}^n f(k) \dots\dots \textcircled{2}$$

以上 ①, ② より,  $\int_1^n f(x) dx \leq \sum_{k=2}^n f(k) \leq \int_2^{n+1} f(x) dx$  が成り立つ.

(証明了)



- (4)  $\log n = X_n$  とする. (2) の結果を用いると,

$$\begin{aligned} \int_1^n f(x) dx &= \left[ \frac{1}{4} x^2 \left\{ 2(\log x)^2 + 2 \log x + 1 \right\} \right]_1^n \\ &= \frac{1}{4} n^2 \left\{ 2(X_n)^2 + 2X_n + 1 \right\} - \frac{1}{4} \geq \frac{1}{2} n^2 (X_n)^2 \end{aligned}$$

であり,

$$\begin{aligned} \int_2^{n+1} f(x) dx &= \left[ \frac{1}{4} x^2 \left\{ 2(\log x)^2 + 2 \log x + 1 \right\} \right]_2^{n+1} \\ &= \frac{1}{4} (n+1)^2 \left\{ 2(X_{n+1})^2 + 2X_{n+1} + 1 \right\} - \left\{ 2(X_2)^2 + 2X_2 + 1 \right\} \\ &\leq \frac{1}{4} (n+1)^2 \left\{ 2(X_{n+1})^2 + 4X_{n+1} + 2 \right\} \\ &= \frac{1}{2} (n+1)^2 (X_{n+1} + 1)^2 \end{aligned}$$

$S_n = \sum_{k=2}^n f(k)$  とおくと, (3) より,

$$\begin{aligned} \int_1^n f(x) dx \leq S_n \leq \int_2^{n+1} f(x) dx \\ \frac{1}{2} n^2 (X_n)^2 \leq S_n \leq \frac{1}{2} (n+1)^2 (X_{n+1} + 1)^2 \end{aligned}$$

$n \geq 2$  において  $(nX_n)^r > 0$  であるので, 辺々を  $(nX_n)^r$  で割ると,

$$\frac{1}{2} n^{2-r} (X_n)^{2-r} \leq \frac{S_n}{(nX_n)^r} \leq \frac{1}{2} \cdot \frac{(n+1)^2}{n^r} \cdot \frac{(X_{n+1} + 1)^2}{(X_n)^r}$$

ここで,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} n^{2-r} (X_n)^{2-r} = \begin{cases} \infty & (2-r > 0, \text{ すなわち } 0 < r < 2 \text{ のとき}) \\ \frac{1}{2} & (2-r = 0, \text{ すなわち } r = 2 \text{ のとき}) \\ 0 & (2-r < 0, \text{ すなわち } r > 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

であり,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{X_{n+1}}{X_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log(n+1)}{\log n} = 1$  を用いると,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \cdot \frac{(n+1)^2}{n^r} \cdot \frac{(X_{n+1}+1)^2}{(X_n)^r} = \begin{cases} \infty & (0 < r < 2 \text{ のとき}) \\ \frac{1}{2} & (r = 2 \text{ のとき}) \\ 0 & (r > 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

であるので,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{(nX_n)^r} = \begin{cases} \infty & (0 < r < 2 \text{ のとき}) \\ \frac{1}{2} & (r = 2 \text{ のとき}) \\ 0 & (r > 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

であるので,  $n \rightarrow \infty$  のとき,  $\frac{S_n}{(nX_n)^r} = \frac{S_n}{(n \log n)^r}$  が 0 ではない定数  $c$  に収束する  $r$  の値は

$r = \underline{2}$  であり, そのときの極限值  $c$  は  $c = \underline{\underline{\frac{1}{2}}}$  である.